

コーディング仕様

コンテンツ幅

メインビジュアルが1000px、中のコンテンツが600pxです。

INDEX

白背景にします。

DETAIL

画像とテキストを横並びに配置します。

著者、出版社、発行年のエリアの上下には罫線を引きます。

レスポンシブ

ブレイクポイントは1024pxです。

DETAILのコンテンツは縦積みになります。

ヒント

↓
↓
↓
↓
↓
↓
↓
↓
↓
↓
↓
↓

全体のレイアウト構成



解説!

レイアウト構成は下記の通りです。

header

ロゴを囲みます。

main

コンテンツのメインエリア全体を囲みます。

div (#mainvisual)

メインビジュアルのエリアを囲みます。

section (#index)

Indexコンテンツのエリアを囲みます。タイトルを含む一つのまとまったコンテンツなのでsectionタグを使います。

section (#detail)

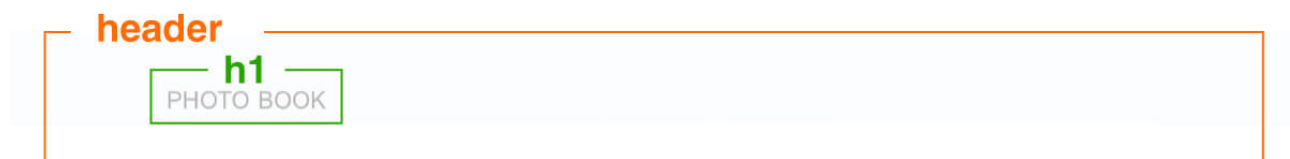
Detailコンテンツのエリアを囲みます。タイトルを含む一つのまとまったコンテンツなのでsectionタグを使います。

footer

コンテンツ下のfooter部分を囲みます。

各パーツのレイアウト構成

header



コーディングのヒント!

ヘッダー全体をheaderタグで囲みます。

ロゴをh1タグで記述します。

div (#mainvisual)

div (#mainvisual)

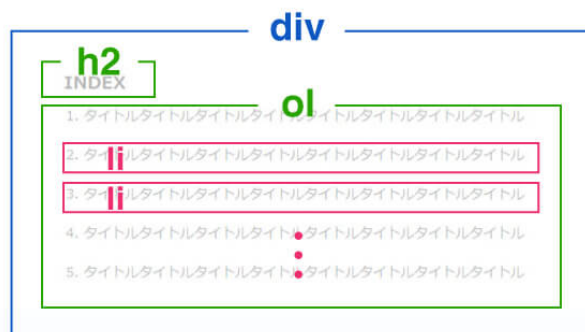


コーディングのヒント!

メインビジュアル全体をdivタグで囲み、マージンの設定を行います。

section (#index)

section (#index)



コーディングのヒント!

エリア全体をsectionタグで囲み、背景を白に設定します。

中のコンテンツ部分をdivタグで囲み、横幅を600pxに設定して中央に配置します。

タイトル

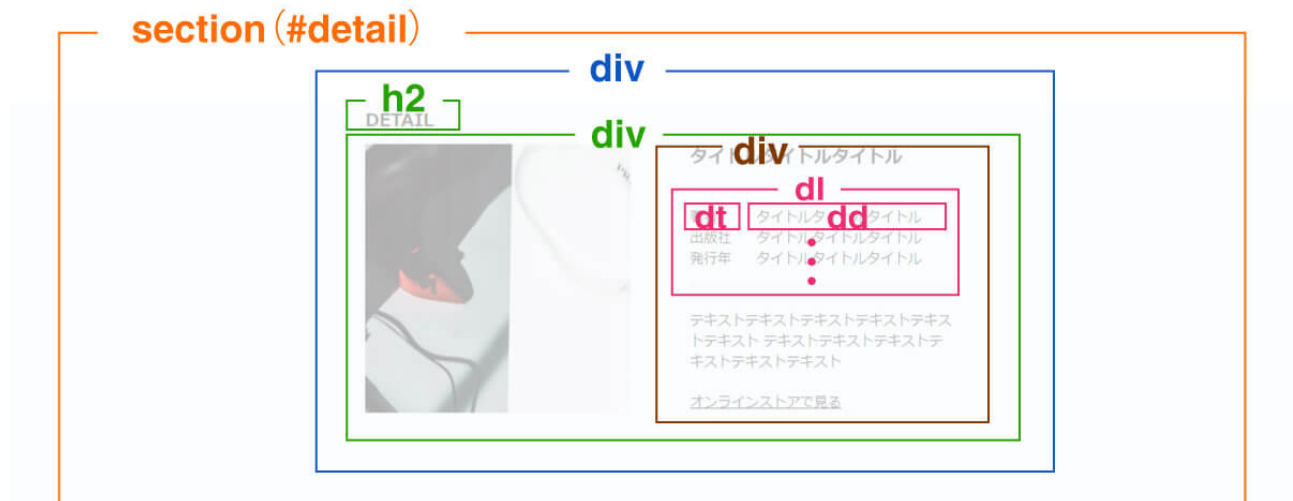
h2タグで記述します。

Indexリスト

番号付きのリスト、ol、liタグを使用します。

ちなみに、順序性のない箇条書きの場合は、ul、liタグを使用します。

section (#detail)



コーディングのヒント!

エリア全体をsectionタグで囲みます。

中のコンテンツ部分をdivタグで囲み、横幅を600pxに設定して中央に配置します。

タイトル

h2タグで記述します。

画像とテキストエリアの横並び

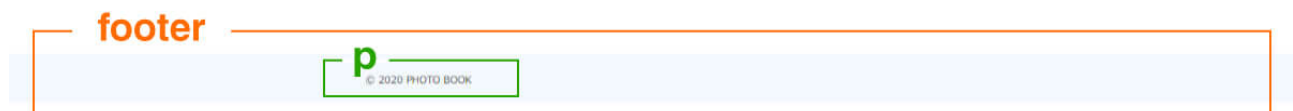
画像とテキストエリア全体をdivタグで囲み、Flexboxで横並びに配置します。

著者、出版社、発行年

dl、dt、ddタグを使用します。

dtタグとddタグは、Flexboxで横並びに配置します。

footer



コーディングのヒント!

フッター全体をfooterタグで囲みます。

コピーライトをpタグで記述します。

コーディング練習メニューに戻る

